

事業所における自己評価結果（公表）

公表: 令和6年 3月29日

事業所名: 合志市社協「れんがの家」

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児年齢、発達段階に応じて、環境調整をスタッフ一同で行い、日々の情報共有、創意工夫を行っている。 ・敷地内の部屋を他事業と共有しながら療育活動に使用している。 ・人数に応じて部屋を分けるなどしている。 ・室内の区切りや、当日の配置などミーティング等で取り決めている。 ・午前、午後で人数調整を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の指定基準以上を満たしている。 ・クラス別で活動をおこなっているため、れんがの家で利用できるスペースを最大限活用している。しかし限りもあるため、パーティション等や、こどもさんの安全に配慮し、環境調整を行っている。 ・朝のミーティングで、こどもさんの特性、連絡帳アプリで当日の様子を確認し、適宜活動場所の検討をしている。
	②	職員の配置数は適切である	5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児の為に、看護師配置を希望したい。 ・医療的管理が必要な利用児については、他事業からの協力を依頼しているが、利用児の日頃の様子からの変化などアセスメントできる職種の配置が児発にも必要であると考えられる。 ・利用児の人数だけではなく、その日の利用児の特性に合わせた配置が欲しい。 ・規定の人数に対応しているが、状況に応じた配置は今後とも検討しないといけないと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児対応について、ニーズもある事から、職員募集は継続している。障がい者支援センターとして、配置ができるまで、他課の協力をお願いしていく。 ・人員配置基準の常勤2名に、作業療法士、保育士の加配2名を配置、それ以上に臨時職員として保育士を配置している。 ・より適切な支援が出来るように、今後も法人として人材確保に努めていく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・民家を使用しているため、安全に利用児が過ごせるように、様々な工夫をしているが、常に危機管理は必要である。 ・パーティションや襖を使用して空間作りを図っている。視覚支援や感覚過敏に対する配慮も行うよう工夫している。 ・トイレから手洗い等1度部屋を出なければならずその都度そこに人員が取られたり、他の部屋への興味から走り出してしまうこともあるので気をつけている。 ・民家の家屋ベースなので最大限努力は行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所と共有スペースもあるので、支援者側としても、綿密に環境整備はしている。 ・こどもさんが安心、安全に過ごせるよう、また、幅広いニーズに対応できるように、今後も環境整備を行っていく。 ・安全委員会が率先して、危険箇所の確認、ヒヤリハットの検証も引き続き行っていく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃や消毒等に日々取り組みながら行なっている。リスク管理については、日々ヒヤリハットなど含めて検討しているが、今後も課題があり検討が必要。 ・消毒や、清掃はしっかり行っている。 ・都度清掃を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境面においては、常に検討を重ねながら対応している。 ・衛生面に関しては、感染委員会が率先して、感染症流行を確認し、随時感染マニュアルの見直しに努めている。職員にもマニュアル変更時は、周知している。
	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、職員で振り返りを行い。個別支援計画の確認、定期的な、ミーティングを行い。随時、必要な支援について考え、支援の統一を図っている ・毎朝のミーティングや、共有のノートを使い業務の伝達や共有がしやすくなるよう務めている。 ・支援後やミーティングなど。 ・月2回のミーティング実施、振り返り。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のミーティング、活動後の振り返り、定期職員ミーティングを開催し、ミーティング記録及び申し送りノートを活用することで、職員全体に情報の漏れがないよう努めている。 ・今後も、全職員で、PDCAサイクルへの取り組み方を検討していく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の機会を設けると共に、定期的な保護者会、療育参観を行い、保護者の意見を確認。支援の構築を行っている。 ・事業所評価や保護者会後のアンケート、面談などでご意見をいただく機会を作り、職員で改善に向けた検討を行なっている。 ・年一回実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回、保護者等向けの事業所評価アンケートを実施し、要望、意見の集約に努めている。 ・年度初めに、アンケート結果を、事業説明会でも説明し、解決に向けての取り組みも伝えている。 ・アンケート以外でも、面談、保護者会でも、要望把握に努めており、支援の構築を行っている。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0		社協ホームページに掲載するとともに、事業所内に閲覧用ファイルを設置、公開している。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3	・今後計画していく予定。	今後、第三者評価を取り入れていく予定。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修には、積極的に全職員が参加できるように、業務の調整を行なっている。 ・全職員が参加できるように、内外研修年間計画を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を策定し、全職員が外部研修に参加できるように、勤務調整を行っている。 ・資格習得、専門的スキル向上の為受講できるように、法人としても検討していく。
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で、モニタリング検証を行なっている。 ・れんがの家独自のアセスメント表に記入をご家族に依頼し、面接を実施している。 ・個別支援会議や、振り返りで密に連携を図っている。 ・職員間で朝ミーティングや隔週の会議にて共有できるように工夫している。特に隔週になったので試行錯誤をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者、作業療法士で、発達スケールを参考に生活や活動場面のアセスメントを行い、個別支援計画を立案作成している。 ・個別計画書立案を元に、全職員参加個別支援会議を行い、ニーズの把握、モニタリング検証を行っている。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時、保護者面談、モニタリング参加等で、随時アセスメントの更新を行っている。 ・れんがの家独自のキッズ評価スケールや感覚のアセスメントを実施している。 ・KIDSを活用している。 	・KIDSを基にした独自のアセスメントツールは使用している。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達管理責任者、作業療法士、保育士等の視点を持って、支援項目に入れている。 ・ガイドラインに沿って計画案を作成し、具体的な支援や目標を個別支援会議にて全職員で検討して計画作成をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達管理責任者、作業療法士、保育士が多面的に関り、アセスメントを行っている。 ・個別支援会議において、個別支援計画書に、こども、保護者のニーズに合わせた支援項目が入っているか、児発管と共に全職員で確認している。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で、個別支援計画にそったモニタリング検証を行なっている。 ・利用日には計画が見れるようにしている。 	・児発管、当日の担当職員で、こどもさんの状況観察に努め、共通認識し、支援内容の検証を行っている。また、その日の振り返りをもとに、次の支援につなげている。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・担当を決め計画的に行なっている。 ・週案を担当が考え、ミーティングにて再度検討する機会を設けている。 ・隔週職員ミーティング、週に一回の頻度で週案を精査している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別に、年間計画を策定している。計画を元にミーティング内での確認、週案の立案を行っている。目標、目的も明確にし、職員での共通認識にも努めている。 ・こどもの特性、発達に応じて、個別支援会議でも共有し、個々のプログラムについて検討している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の成長を、全職員で共有し、ニーズに則った支援内容の確認をし、工夫をしている。 ・週ごとに活動のねらいを明確にして、バリエーションをもち具体的療育活動を検討している。 ・週案を話し合う時に意見を出し合うよう務めている。 ・年間計画や常に研鑽できるようにアンテナを張っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他部署にも協力してもらいミュージックケアや、外部講師、歯科衛生士による歯科教室を計画し、活動の工夫を行っている。 ・子どもが楽しんで参加し、成長を保護者と分かち合えるように、プログラムの展開を行っている。 ・れんがの家だけではなく、合志市社会福祉協議会内でのスペースや、他部署の専門的なスキルも活用して、内容の工夫を行っている。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・週案を全職員で、検討している。 ・小集団の療育グループと個別の療育グループ参加を、利用児のアセスメントをもとに保護者に提案し、決定を行なっている。 ・発達に合わせてつきぐる一歩(個別)とにじぐる一歩(小集団)の活動を計画している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は、年齢児でのグループ分けを行っているが、発達の状況に応じたグループ編成を行っている。 ・個別支援計画をもとに、課題に取り組んでいるか、随時検証を行っている。
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・週案、毎朝ミーティング、その日の利用児に合わせて行なっている。 ・朝にミーティングを行っている。 ・開始時間の繰り上げによって難しくなった時間確保などの朝の時間帯の改善を行っている最中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援開始前に、ミーティングを行い、再度、当日の担当職員の確認、子どもさんの前回利用の様子、連絡帳(ICT)による当日の様子を全職員で共通認識し、役割分担の確認を行っている。
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了後、毎日行っている。 ・時間の許す限り行っているが、全体では行なえないこともある、一緒に支援したもの同士では終了後話す時間が多い。 ・できるだけ情報を共有できるように確認する時間にあてている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了後、振り返りを行い、申し送りノートに記載。当日不在の職員にも伝達している。 ・ヒヤリハット、事故、苦情等があった場合は、当日中に振り返りを行い、必要な報告に努めている。
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用当日中に、保護者に確認いただけるように、活動の様子等をエコルドリンクにて送信している。 ・記録の徹底と業務の効率化を図る為に、ICT導入を開始している。 ・記録は紙ベースではなくデータベースとして、ICT化を進めている最中であり、新しいことへの不慣れな部分はあるのだが、改善や課題解決に向けて日々見直しを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用当日に、保護者に確認してもらえるように、写真等の工夫もし、送信している。 ・個別支援記録も、当日中に記録ができるように、業務調整を行っている。 ・ヒヤリハット等があった場合も、翌日の適切な支援につながるように、即日検証に努めている。
	⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議において、定期的にモニタリング検証を行っている。 ・随時、相談支援専門員、関係機関との連携に必要な場合は、随時モニタリング検証を行っている。
	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者は必ず、また可能な限り担当職員も、参加している。 ・概ね参加出来ていると考える。また、共有できるように密なコミュニケーションなども心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に児童発達支援管理責任者が参加、必要に応じて担当保育士、専門職(作業療法士)が出席し情報共有を図っている。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、園等訪問し、保護者の要望に応じて、受診同行も行なっている。 ・日々の送迎の際のご家族や保育園とのやりとりを丁寧に行い、保護師や病院との連携も図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、保護者との信頼関係を構築しながら、必要に応じて、関係機関との連携して支援を行っている。 ・園等への送迎時も、子どもさんの様子を共有し、支援の統一を図っている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	⑳ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に確認し、主治医、MSWと連携を図っている。 ・病院受診同行や、園との連携を図っている。 ・行っているが、今後を鑑みると連携の強化の必要性を感じている。 ・園への訪問や支援会議の実施など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望に応じて、医療的ケア児の受け入れも出来る限り行っている。事業所として、看護師の配置ができていないので、他課に協力してもらい、安心して活動に参加してもらっている。 ・地域の保健、医療との連携を図っている。保護者の要望、必要に応じて受診同行や、医療機関からの情報提供を受け、安心できる支援につなげている。
	㉑ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に確認し、主治医、MSWと連携を図っている。 ・保護者の同意を得て、緊急時の対応についても準備をしている。 ・今後も整えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児の受け入れもできるように、看護師の配置を今後も検討していく。 ・受け入れ時には、保護者との密なやり取りを行い、こどもの主治医、協力医とも連絡体制を行っていく。
	㉒ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員と共有し、必要に応じて、学校への移行支援を行なっている。 ・ケース会議や担当者会議などで連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に、相談支援専門員を介して、園、就学先との連携を図っている。 ・保護者の要望に応じて、園と協働して就学支援サポートシート作成に努めている。
	㉓ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員と共有し、必要に応じて、学校への移行支援を行なっている。 ・就学支援シートやれんがの家独自のサポートシート、情報提供書作成など情報提供を行いサポートしている。必要な際には、訪問での対応も行う。 ・できるかぎり支援を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員との連携を図り、就学前支援会議への出席。また、保護者の要望をもとに、園と、協働して就学支援サポートシートの作成に努めている。
	㉔ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に受講をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害者支援センター、地域療育センター等主催の研修に参加している。研修報告を作成し、参加しなかった職員にも研修報告し、全職員の理解を深めている。
	㉕ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	6	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ5類になったが、他の感染症の流行もあるので、自粛傾向である。 ・イベントなどを社協施設で行うよう企画をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ5類にはなったが、今年度は、他の感染流行も年間通してあった為、緩和されるまでにはいたっていなかった。今後も、同法人内に保育園もあるので、交流の機会ももっていききたい。
	㉖ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者のみの集合になっている。しかし、定期的に代表者から、課題収集があつているので、会議の参加、必要に応じて、課題の提供を行っていく。
	㉗ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳やLINEなどを活用している。 ・保護者面談を定期的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳アプリを導入し、より詳しくこどもさんの様子を伝えられるようになった。 ・園送迎で対応しているため、園との連携も図っているが、保護者とは面談も、児発管が調整している。 ・定期的に保護者会、面談を行う事で、こどもの発達状況の確認を保護者と共有し、支援の構築に努めている。
㉘ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護支援として、月2回程度のおやこれんがや療育参観、面談日を設けて支援を行なっている。 ・親子活動や保護者会を通して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、親子れんが、療育参観を計画的に行い、ペアトレという事ではないが、家族支援に努めている。 	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③② 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	・契約時、内容変更時は、説明する機会を設けている。	・契約時、年度初めの事業説明会時に説明責任を果たしている。 ・国の報酬改定や、運営規定、重要事項の変更があった場合は、利用規定、重要事項説明書に基づいて、迅速に説明責任を行っている。
	③③ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0		・面談にて説明を行っており、同意を得るように努めている。
	③④ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	・保護者面談、療育参観等の機会を設けて行なっている。 ・支援として、月2回程度のおやこれんがや療育参観、面談日を設けて支援を行なっている。	・連絡帳アプリでの相談については当日に返信、または必要に応じて電話にて迅速に対応している。また、必要に応じて、事業所内相談支援を随時行っている。 ・定期的に、保護者面談の機会を設けており、子ども、保護者の困りごとに対して相談援助を行っていく。また引き続き、職員の相談援助のスキル向上に努めている。
	③⑤ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	・保護者面談、療育参観等の機会を設けて行なっている。 ・小集団による保護者同士の交流の場を設けている。 ・保護者同士が話す機会を持てるよう土曜の開所日を利用している。 ・保護者会を定期的開催している。	・土曜日の開催にはなるが、保護者会や、親子れんが等を開催して、保護者の子育ての悩みを共有している。 ・開催時は、保護者のニーズに応じたテーマを設定した内容で工夫している。
	③⑥ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0		・相談や申し入れについて、担当や児童発達支援管理責任者、管理者が迅速に対応し、全職員で、相談内容についての情報収集し、共通認識と、対応に努めている。
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	・月に1回、れんがだよりを発行し、保護者へ渡している。	・れんがだよりを発行し、活動の様子、行事予定を発信している。 ・連絡帳アプリでも、出来る限る写真添付で保護者に伝えている。 ・れんがから、必要な連絡をしたい場合は、LINEでの一斉送信を行っている。
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	・職員間で、常に確認できるマニュアルの整備。研修を行なっている。	・契約時、年度初めに「個人情報取り扱い業務概要説明書」の説明責任を行っている。 ・れんがの家としても、安全委員会を設置し、研修の開催し、職員の個人情報の取り扱いの意識も高めている。
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	・文章はわかりやすく、写真を交えて伝えています。必要時、面談の場を設けている。	・子どもの特性を考慮し、視覚支援、空間作り等配慮、工夫している。 ・保護者に対しても、説明責任を果たすべき、面談を重ね理解を得られるように努めている。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動において、ボランティアの協力、デイサービス等交流を行なっている。 ・行事の際には、ボランティアさんへの声かけを行なっている。 ・コロナ以降機会が減っている。 ・社協を通じて周知を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会等で、ボランティアさんの協力を得たり、同法人内のデイサービスとの交流も行っている。 ・法人内の「地域活動支援センター」の利用者、ボランティアさんとの活動の交流も行った。
	④⑪ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に研修を行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・れんがの家で各委員会を設置している。また、各マニュアル策定も行っている。保護者には契約時、年度初め等に、事業所としての緊急時マニュアルの説明を行っている。緊急時等には、LINEの活用についても、今後も保護者に周知していく。
	④⑫ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・火災、不審者訓練は行なっているが、非常時訓練は、マニュアルを整備中であり、令和6年度計画的に行う予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、避難訓練、不審者対応訓練を各1回以上行っている。訓練を重ねて行くことで、今後も全職員の危機管理意識を高めていく。 ・合志市地域防災計画の確認と、合志市社会福祉協議会「事業継続計画」(BCP)の整備も行っている。
	④⑬ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時、随時、年度初めは行なっている。 ・契約時と年度初めに、保護者様への確認書類を配布して最新の情報を把握するよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に丁寧に聞き取りを行うとともに、毎年児童票を更新し確認を行っている。服薬、発作等の心配があることもさんが利用される時は、職員全員が意識が向くように工夫し、対応している。
	④⑭ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な利用児には、保護者に依頼している。 ・医師の指示書や内服薬の説明書を必ず持参していただき、必要なお薬の使用についても、実践練習を定期的に行なっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食の提供はなくなったが、今後も利用開始時前や、利用開始後も状態観察と、アセスメントを行っていく。また、書面で確認するとともに、職員全員で危機管理を遂行していく。
	④⑮ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会において、定期的な会議、研修、検証をおこない。常に事業所内でも、検証している。 ・ヒヤリハットは、日々声をかけながら記録に残して今後の対策を検討している。 ・朝のミーティング時、全職員で、目を通すようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の振り返り、ミーティングを通して、小さなことも記録し、意識向上に努め、再発防止につなげていく。 ・れんがの家の安全委員会の委員が率先して、ヒヤリハット記録があった場合は、全職員で検証できる機会を設けている。
	④⑯ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会において、また、担当者を決め、随時検証を行なっている。 ・虐待に関するチェックリストを定期的に行い、意識を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・れんがの家では、権利擁護委員会を設置し、虐待を防止する研修を定期的実施、職員の権利擁護に関する意識向上に努めている。
	④⑰ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画書に、安全配慮義務を優先し、支援内容を記載している。また、保護者にも内容の説明を行っている。 ・全職員で、モニタリング検証を行い、安心、安全な利用につなげている。 ・民家を活用しての療育を展開しているので、安全に過ごして頂けるように、必要な環境整備については、保護者に確認をとっている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。